

お友達ご紹介

12月 キャンペーン

新規申込締切：2015 年3 月31 日

～北海道 お取り寄せグルメプレゼント～

ご新規サーバー設置のお友達ご紹介頂くと **A or B** をプレゼント！

A 海鮮しゅうまい 2種類 各8個

帆立貝 / ズワイガニ



製造：函館タナベ食品 株式会社

北海道産の素材にこだわっています。旬の時期に獲れた海鮮をふんだんに使用した、海鮮のうまみたっぷりのおいしさ。

B 八雲の天然水

5ガロンボトル（18.9ℓ）× 2本



いつものお水が2本も届く！

※3ガロンボトル（11.3ℓ）× 3本に変更可

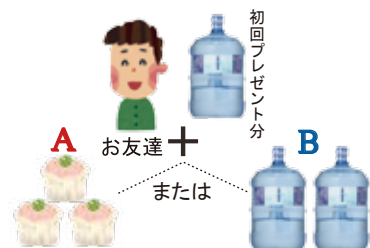
プレゼントのお届け先は、お客様とお友達間で下記の通りご指定頂けます

お友達には初回のご購入時に5 ガロン1 本をプレゼント致します。

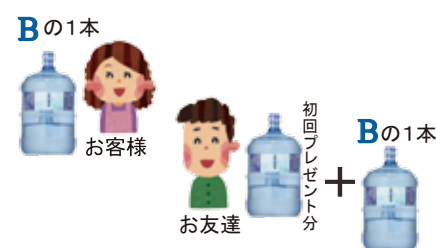
1 お客様に**A**または**B**をお届け

2 お友達に**A**または**B**をお届け

3 お客様とお友達で**B**を分け、それぞれ1本ずつお届け



※お客様へのプレゼントはございません。



☎ 0120-548-322

ご紹介はお電話にてお待ちしております。
八雲の天然水受付センター 月～土 9時～19時

※品切れ等の場合内容を変更致しますがご了承下さい。 ※ご紹介頂くお友達の配達エリアは東京都と埼玉県(一部を除く)のみキャンペーン対象とさせていただきます。

Yakuho 便り

第5号

八雲の天然水 検索 バックナンバーは ホームページからご覧いただけます

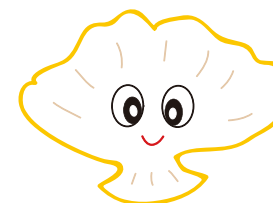
今年も早いもので 1年の締めくくりの時期となりました。**Yakuho 便り** (第5号)をお届け致します。



貝化石のカルシウムがたっぷり！

八雲の天然水は、約 2000 万年前の貝化石層（カミオニシキ貝など）から汲み上げています。そのため、貝から溶け出した善玉カルシウムである「風化カルシウム」が豊富です。

●カミオニシキ貝の ふーかるくんと ふーこちゃん



私たちが八雲の天然水の ヒミツを案内するよ！

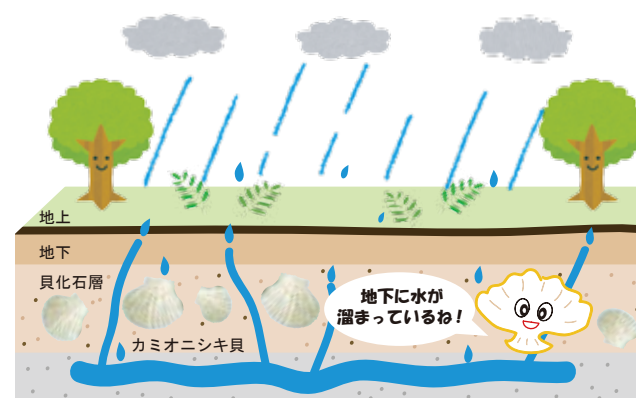
①今から1500万年～2000万年ほど前の北海道八雲町。この地域は海で、海の底にはたくさんの貝が暮らしていました。



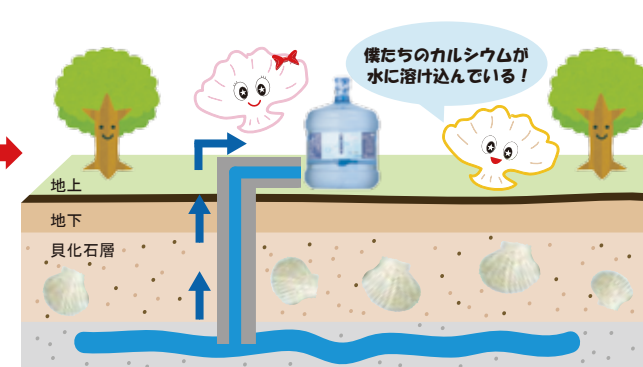
②その後、地殻変動が起き、海だった地域は、大地に変わりました。海底で暮らしていた貝は、土の中に埋もれ、化石になりました。



③雨や雪が降ると、長い年月をかけて地中に浸み込み、貝化石層を通ります。



④水が貝化石層を通る間に、貝のカルシウムが水中に溶け込みます。地下に溜まった水をポンプでくみ上げ、ボトルに入れます。





開封したボトルはどれくらいで飲み切ればよいの？

開封後1か月を目安にお召し上がり下さい。未開封では採水から1年が賞味期限です



サーバーの日頃のお手入れはどうすればいいのじゃ？



下記の通りお願いします。※必ず電源コンセントを抜いた状態で行って下さい。

冷・温
水蛇口



ふきんやキッチンペーパー等で拭き取る。汚れがひどい場合、市販のアルコール系衛生剤で消毒して下さい。

ボトル
差し込
口



差し替える前
にお掃除

ふきんやキッチンペーパー等で拭き取る。汚れがひどい場合、市販のアルコール系衛生剤で消毒して下さい。

水受け
トレイ



トレイを持ち上げて取り外します。中性洗剤で洗って下さい。



背面・放熱部

柔らかなブラシや掃除機などで掃除して下さい。

※放熱部が壁に密着したりほこりが付着したりすると冷却効果が低下します。

※無料でサーバー交換もいたしておりますのでご不明な点がございましたら、お問合せ下さい。



停電したら、サーバーは使えなくなるの？

電源が入っていない状態でも **蛇口から給水が可能です**。※冷却・加熱はできないため徐々に常温になります。また、電源がなくても常温で使用でき、持ち運びも可能なバルブとクレードルもご用意がございます。

※ウォーターサーバーと併用される場合は、**バルブ（2,520円）**はご購入いただきます。

※在庫確保にお時間を頂戴する場合がございます。

バルブ



クレードル



お願い

ボトルをさす時は、必ず2種類のフィルムを剥がしてご使用下さい。



剥がす



※剥がさず使用すると、衛生面やサーバー動作等に不具合が生じる場合がございます。



八雲町を知る！



農民への制作指導をした日本画家の十倉金之作
写真：八雲町「社会教育課ブログ」
<http://www.town.yakumo.lg.jp/>

・八雲町と「木彫り熊」

北海道土産の定番として「木彫り熊」を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。実は、この北海道の「木彫り熊」は八雲町が発祥です。

尾張藩第19当主徳川義親は、尾張から八雲に移住した小作の人々の苦しい生活を向上させるため「徳川農場」の経営をはじめ、様々に尽力していました。

大正10年～（1921）旅行でスイスを訪れた徳川義親は、民芸品として販売されていた「木彫り熊」を目にしました。

そして、八雲でも木彫り熊を「農作業ができない冬の間の副業として奨励し、生活の向上に役立てよう」と、買い求め帰国しました。

これを見本に、八雲の農民が製作した木彫り熊が北海道の「木彫り熊」第1号となりました。

「とにかくつくってみろ。できたものは私がすべて買い上げよう」と言って制作を奨励したといえます。



「木彫り熊」を作る農民の様子

写真：八雲町「デジタル八雲町史」
<http://www2.town.yakumo.hokkaido.jp/history/>

その後「木彫り熊」は全道に広っていき、北海道を代表する土産の1つとなりました。

八雲には徳川義親の胸像が設置されており、地元では親しみを込めて、「徳川さん」と呼ばれています。

参考：北海道八雲町 <http://www.town.yakumo.lg.jp/>